

【短報】福井県における希少水生甲虫2種の記録

福井県において希少水生甲虫2種を採集しているので、報告する。

報告に先立ち、福井県内における水生甲虫の記録をご教示いただき、発表を勧めていただいた福井大学教育地域科学部の保科英人准教授、仲介の労を賜った石川県ふれあい昆虫館の福富宏和氏にお礼申し上げる。

1. コマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus acuminatus* Motschulsky, 1859

1♂, 福井県越前市小野町, 24. VI. 2013, 筆者採集 (図1).

2. ミユキシジミガムシ *Laccobius inopinus* Gentili, 1980

1♂, 福井県越前市小野町, 24. VI. 2013, 筆者採集 (図2).

同定は、森・北山 (2002) および上手ほか (2013) に従い、雄の交尾器を確認した。標本は全て保科英人准教授が保管している。

両種が確認されたのは田園地帯の周辺に形成された湿地であった。コマルケシゲンゴロウは1個体しか見られなかったが、ミユキシジミガムシは多数の個体が確認され、そのうちの1個体を捕獲した。

福井県のゲンゴロウ類は、森・北山 (2002) により38種が記録されている。このうち、ウスイロシマゲンゴロウ *Prodaticus rhanoides* (Sharp, 1882) は下野谷 (1993) によりヒメゲンゴロウ *Rhantus suturalis* (Macleay, 1825) の誤同定であったことが報告されており、福井県からの分布記録が抹消されている。福井県 (2015) ではシャープツブゲンゴロウ *Laccophilus sharpi* Regimbart, 1889 が掲載されており、累計38種のゲンゴロウ類が確認されることになるが、コマルケシゲンゴロウは記録さ



図1-2. 福井県産コマルケシゲンゴロウ (1) とミユキシジミガムシ (2) .

れていない。また、福井県 (2015) によると、ミユキシジミガムシも未記録であることから、これら2種は福井県初記録になるものと思われる。また、両種は、「環境省版レッドデータブック」の準絶滅危惧 (NT) に選定されており (環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2015), 福井県においても希少種の可能性がある。

引用文献

福井県, 2015. 福井県みどりのデータバンク. (http://www.erc.pref.fukui.jp/gbank/G_index.html) (2015年11月17日アクセス)

上手雄貴・森 正人・司村宜祥・松井英司, 2013. 日本産シジミガムシについて. さやばねニューシリーズ, (9): 12-15.

環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2015. レッドデータブック2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物—5昆虫類. 509 pp. 株式会社ぎょうせい.

森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版 図説 日本のゲンゴロウ. 231 pp. 文一総合出版.

下野谷豊一, 1993. 福井県産ゲンゴロウ類の分布記録. 福井市自然史博物館研究報告, (40): 83-89.

(渡部晃平 920-2113 白山市八幡町戊3番地
石川県ふれあい昆虫館)

【短報】福井県におけるマルケシゲンゴロウの記録

マルケシゲンゴロウ *Hydrovatus subtilis* Sharp, 1882 は環境省レッドリストで準絶滅危惧に選定されており、近年、全国的に減少傾向にある (環境省自然環境局, 2015). 近接する石川県加賀地方における記録があるが (石川県野生動植物保護対策調査会, 2009), 福井県ではこれまで確認されていなかった。今回、石川県に近接する福井県北部において確認されたため、県初記録として報告する (図1).

1ex., 福井県あわら市後谷ため池, 11. X. 2015, 西原採集・保管.



図1-2. 福井県産マルケシゲンゴロウ (1) と生息が確認されたため池 (2). ヒシが水面を覆い、岸边にはマコモが生育する.

5 exs., 福井県あわら市後谷ため池, 25. X. 2015, 梅村・保科採集・保管.

生息環境はヒシヤマコモの繁茂する大きさ 60 m × 40 m ほどの農業用ため池である. 本種は植物の多い水域で確認されており(森・北山, 2002), 本ため池でも水際に生育するマコモの根際から採集された(図 2). 本池では, 本種の他に, 県内で分布が局限されるミヤケミズムシやヒメミズカマキリ, アオヤンマが確認されている.

本種の確認された池の周辺にあるため池には侵略的外来種オオクチバスやウシガエル, アメリカザリガニが侵入している. これらの侵略的外来種はゲンゴロウ類などの水生昆虫に大きな影響を及ぼす(西原, 2010). 本ため池でもアメリカザリガニの小型個体が確認されており, 老朽化ため池改修事業も予定されている. 本種の生息状況は今後急速に悪化することが予測されるため, ため池改修への対策, アメリカザリガニの低密度管理などの県との協働による本種の保全対策が急務である.

末筆ながら, 今回の調査機会をご提供いただいた福井県里山里海湖研究所の石井潤博士, 本種に関する情報をご提供いただいた東海大学の北野忠博士に厚くお礼申し上げる.

引用文献

- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2015. レッドデータブック 2014—日本の絶滅の恐れのある野生生物—5 昆虫類. 509 pp. ぎょうせい.
- 石川県野生動植物保護対策調査会, 2009. 改訂・石川県の絶滅のおそれのある野生生物石川県レッドデータブック(動物編) 2009. 446 pp. 石川県環境部自然保護課.
- 森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版図説日本のゲンゴロウ. 231 pp. 文一総合出版.
- 西原昇吾, 2010. 日本のゲンゴロウ類の衰亡と保全. Pp. 151-162. 日本の昆虫の衰亡と保護. 石井 実(編). 328 pp. 北隆館.

- (西原昇吾 112-8551 東京都文京区春日 1-13-27
中央大学人間総合理工学科保全生態学研究室)
(梅村信哉 918-8006 福井市足羽上町 147
福井市自然史博物館)
(保科英人 910-8507 福井市文京 3-9-1
福井大学教育地域科学部)

【短報】伊豆大島で採集された水生甲虫3種

伊豆諸島の水生甲虫相に関してはこれまで断片的な報告があるに過ぎなかったが, 近年東京都による調査結果を踏まえて, 小笠原諸島・伊豆諸島を含む島しょ部のレッドデータブックが公表され

た(東京都環境局自然環境部, 2014)ほか, 吉富(2014)によって取り纏められた詳細な報告がある. 筆者は伊豆諸島北部に位置する伊豆大島において, 近年島内において記録がないか, もしくは初記録と思われる水生甲虫を採集しているのでここに報告する.

採集場所は大島町泉津の溜れ沢に点在する落葉が堆積した水たまりである. これらの個体はいずれもタモ網による掬い採りによって得られた. なお, 標本はすべて筆者が保管している.

1. マメゲンゴロウ *Agabus japonicus* Sharp 2♀♀, 5. VIII. 2013.

伊豆大島では古い文献記録(Kamiya, 1938)はあるが, 近年は確認されていないようである(吉富, 2014).

2. エゾヒメゲンゴロウ *Rhantus yessoensis* Sharp 1♂2♀♀, 4. VIII. 2013; 3♀♀, 7. VIII, 2014; 2♂♂5♀♀, 5. VIII. 2015.

マメゲンゴロウと同様に, 伊豆大島では古い文献記録(神谷, 1938; Kamiya, 1938; 中根, 1964)はあるが, 近年は確認されていないようである(東京都環境局自然環境部, 2014; 吉富, 2014). 筆者は2013年から2015年までの3年間, 毎年8月上旬に伊豆大島を訪れる機会に恵まれたが, 当地では毎回本種を確認できていることから安定した生息地といえる.

なお, 伊豆大島における本種の生息環境は, 溜れ沢に点在する落葉が堆積した水たまりという点で静岡県富士市における生息環境(北野, 2000)と同様であった. 本種は北海道以外では産地は極めて限定的であり(森・北山, 2002), 海洋島である伊豆諸島に分布することもさることながら, 特殊な生息環境に生息するという点でも興味深い.

3. キベリヒラタガムシ *Enochrus (Methydus) japonicus* (Sharp) 10♂♂3♀♀, 7. VIII, 2014; 3♂♂5♀♀, 5. VIII. 2015.

伊豆諸島では, これまで八丈島からのみ知られていた(吉富, 2014). 伊豆大島初記録である.

末筆ながら, 文献の入手でお世話になった愛媛大学ミュージアムの吉富博之博士にお礼申し上げる.

引用文献

- 神谷一男, 1938. 昆虫綱, 鞘翅群 - 鞘翅目, 龍蝨科. 日本動物分類, 10(8-11): i+8+137pp., 三省堂.